

NHKスペシャル

ヒグマと老漁師

～世界遺産・知床を生きる～

放送日：2020年4月19日 放送時間：49分



対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 理科 社会 総合

この番組の良さ



● 野生のヒグマを叱る男がいる

ヒグマの親父と呼ばれている大瀬初三郎さんは、クマの習性を知っていれば怖くないと豪語します。

世界自然遺産に選定されている北海道の知床半島の先端に、ルシャと呼ばれる地域があります。ここは野生のヒグマが約500頭もいる世界有数のクマの楽園なのです。

大瀬さんたち漁師はそのヒグマと隣り合わせで暮らしています。自然の中にクマがいて、その自然の中にヒトもいます。この番組から、ヒトと動物が共存できる良さを知ることができます。



● 今この知床で異変が起きている

しかし、その豊かな自然を誇る知床が今危機に瀕しているのです。

かつてないほどの食糧不足で、クマたちは飢えに苦しみ、食料を求め、人を威嚇し始めたのです。

更に、ヒトとヒグマの共存そのものが存続の危機にたたされています。世界自然遺産に登録されたことで、生活に使うための橋や道路の撤去を、求められたのです。

ヒトと自然の関わりはどうあるべきなのか？視聴する人に考えさせる番組となっています。



執筆者
徳島県海陽町立海部小学校
指導教諭 **溝内正剛**

番組活用のポイント

● 3つの心の葛藤

この番組には3つの心の葛藤を描く場面があります。

1つは人間の生活を守るため、ヒグマを駆除するかどうかについて。2つ目は飢餓状態のヒグマにエサを与えるかどうかについて。3つ目はヒトの生活を守るか世界遺産の名誉を守るかについてです。

● 心の葛藤① ヒグマを駆除すべきか

大瀬さんが23歳で出稼ぎの漁師として知床にやってきた時、条件の良い漁場は他の漁師のものになっていました。残されていたのがこのルシャでした。

吹き出し風と呼ばれる強風が頻繁に吹き、船を出せないことが多いこの地域は、ヒグマの巣窟でもありました。

はじめは漁の妨げとなるヒグマを駆除していましたが、命を奪うことに対して後味の悪さを感じていました(19分33秒で一時停止)。では、どうすればよいのでしょうか？1つ目の悩みについて考える事ができます。

● 心の葛藤② ヒグマにエサを与えるべきか

ルシャではここ数年、地球規模の気候変動の影響で海水温度の変化が激しくなり、サケ・マスの漁獲量が激減しています。ヒグマにとっても死活問題で、栄養失調のため餓死するクマも出てきました。

それでも頑なに漁師はエサを与えません(27分20秒で一時停止)。エサを与えるべきなのか？動物愛護の観点から考えを深めることができます。

● 心の葛藤③ 世界遺産の思想を守るべきか

世界自然遺産の調査団員は、自然そのものを後世に残すことが大切だと考えており、ルシャに人工的な道路や橋があることに対して、大瀬さんが生活に必要なものだからと説明しても、不満そうでした。

ユネスコの世界遺産に認定してもらいたいと考える、政府や自治体の人たちは、その地域の住民の方たちの生活が不便になったとしても、観光地化のために、世界遺産であることの方を優先するのでしょうか？それとも今までのように、ヒトとヒグマの共存を優先するのが良いのでしょうか(40分34秒で一時停止)？2つの考えについて意見を交わすことができます。